

女性的終助詞に見られる女性性の定量的検証  
—「かしら、のよ／ね、わよ／ね」の使用を対象に—

賈 伊明<sup>か いめい</sup>（名古屋大学）

## 1. はじめに

日本語の終助詞のなかには、主に男性が用いる、あるいは逆に、主に女性が用いる、とされてきたものがある。本発表では、先行研究が「女性語」、「女性（専用）形式」などに分類している終助詞を「女性的終助詞」、「男性語」などに分類しているものを「男性的終助詞」と呼ぶ。一方、性別とは関係なく、男女ともに用いられる終助詞もある。このような終助詞は、先行研究において「中性的」と呼ばれることが多いが、本発表では「無性的」（話者の性別とは無関係という意味で）と呼ぶ。

本発表では、「かしら」「のよ」「のね」「わよ」「わね」の5つの女性的終助詞を扱う。本発表の目的は、この5つの女性的終助詞の女性性（性差）を、大規模な自然会話のコーパスを用いて明らかにすることである。データは、『名大会話コーパス』（以下では「NUCC」）と『日本語日常会話コーパス』の2018年度モニター公開版（以下では「CEJC」）を用いる。

## 2. 先行研究

終助詞のほか、「文末詞」や「文末表現」などの用語があるが、本発表では「終助詞」という用語を用い、益岡・田窪(1992:52)の「文末に現れる助詞で、述語の基本形、タ形、等に接続する」助詞という定義に従う。

### 2.1 女性的終助詞

中村(2000:10)は、著者の内省判断により、動詞／形容詞／形容動詞の語幹／名詞＋「かしら」における「かしら」は女性語（女性らしいと感じる語）であると述べている。任(2005:52)は、『CD-毎日新聞 2000 年版』、『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』、『女性のことば・職場編』の3つのコーパスから抽出したデータを分析している。その結果、非文末に用いられる「かしら」は不定指示の副詞的な働きをし、性差との関連性が薄い、文末に用いられる「かしら」は使用者が女性であることを積極的にマークし、女性性の強い終助詞であるとわかった。

有泉(2013:62)は、15名の大学生・大学院生（男性7名、女性8名）を対象に、日本語の終助詞のジェンダー特異性について、アンケート調査を実施した。調査の内容としては、対象とした40種類の終助詞が用いられる会話文のうち、それぞれの終助詞が、男性が用いるもの（男性形式）なのか、女性が用いるもの（女性形式）なのかを、さらに「男性だけが使う・男性の方が多い・女性の方が多い・女性だけが使う」の4段階から選んでもらった。また、4段階にそれぞれ1点～4点を付け、平均点を算出し、それをジェンダー特異性の基準とする。その点数によって、「男性形式」と「女性形式」をそれぞれ「排他的形式」「高特異形式」「低特異形式」の3つに下位分類している。その結果、「動詞連体形＋わよ」は「排他的女性形式」（3.73点以上）であり、「かしら」、「動詞連体形＋のよ・のね」、「(ナ) 形容詞

連体形+なのよ」は「高特異女性形式」(3.4 点～3.67 点)であることがわかった(p. 66)。

水本ほか(2006:56)は、2005 年に首都圏在住の 20 代～40 代の女性 32 人を対象に、普通体で行われた会話を録音した。そのうち、20 代と 30 代の計 22 名のデータを文字化し、分析した。そして、女性的終助詞の使用・不使用の対立により、「女性文末詞使用形」と「不使用形(neutral)」に分類している。ワ系の「わ(上昇調)」「わね」「わよ(ね)」は「女性文末詞使用形」としている(p. 57)。

一方、現代の日本語においては、「だわ」のような女性的終助詞の使用が少なくなり(「脱女性化」とも言える)、そして、「かな」のような無性的表現の使用が多くなった(「無性化」とも言える)という傾向も指摘されている(尾崎 1997:56、増田 2016:151 等)。

## 2.2 先行研究の問題点

以上の先行研究のうち、中村(2000)は内省、任(2005)は書き言葉のデータおよび少量の話し言葉のデータ、有泉(2013)はアンケート調査に基づいており、本発表が扱う NUCC、CEJC のような大規模な日常会話のコーパスに基づいたものではない。したがって、現代日本語における終助詞の女性性を調査するには不十分なところがあると思われる。

## 3. 研究課題

以上の先行研究と先行研究の問題点を踏まえ、本発表は以下の 2 つの研究課題を設定する。

課題 1 NUCC において、「かしら」、「のよ」、「のね」、「わよ」、「わね」を用いた人数と用いなかった人数には性差が見られるのか。

課題 2 CEJC において、「かしら」、「のよ」、「のね」、「わよ」、「わね」を用いた人数と用いなかった人数には性差が見られるのか。

## 4. 研究方法

NUCC と CEJC から、「かしら、のよ／ね、わよ／ね」の使用例を抽出する。NUCC と CEJC の概要を表 1 に示す。検索システム「中納言」を用い、コーパスごとに検索する。前後文脈の語数は 30 に指定する。

表 1 NUCC と CEJC の概要

	NUCC		CEJC	
作成年度	平成 13～15 年度 (2001～2003 年度)		2016 年度～	
延べ語数 <sup>(3)</sup>	1,128,735 語		106,756 語	
異なり語数	18,010 語		5,326 語	
話者数	計 198 人	女性 : 161 人	計 237 人 <sup>1</sup>	女性 : 129 人

<sup>1</sup> 小磯ほか(2018:477-478)は、話者は延べ 392 人、異なり 237 人であると述べている。

		男性：37 人		男性：108 人
会話数	129 会話		126 会話	
時間数	100 時間		50 時間	

研究課題を明らかにするために、「かしら」、「のよ」、「のね」、「わよ」、「わね」の 5 つの表現を用いた人数と用いなかった人数を男女別にまとめ、RStudio (Version 1.2.5001, R version 3.6.3)を用い、フィッシャーの正確確率検定で分析する。有意水準は 5%とする。また、効果量の指標と大きさの目安は水本・竹内(2008:62)にしたがいファイ ( $\phi$ ) 係数を用い、0.1 を効果小、0.3 を効果中、0.5 を効果大とする。

## 5. 結果

「かしら」、「のよ」、「のね」、「わよ」、「わね」の、用いた人数と用いなかった人数を表 2 に示す。そして、フィッシャーの正確確率検定の結果を効果量とともに表 3 に示す。

表 2 NUCC と CEJC における「かしら、のよ／ね、わよ／ね」の使用・不使用の人数

終助詞	NUCC			CEJC		
	性別	使用	不使用	性別	使用	不使用
かしら	男	3	34	男	1	107
	女	56	105	女	20	105
のよ	男	10	27	男	29	79
	女	96	65	女	48	81
のね	男	16	21	男	37	71
	女	131	30	女	60	69
わよ	男	2	35	男	1	107
	女	36	125	女	12	117
わね	男	6	31	男	3	105
	女	44	117	女	15	114

表 3 フィッシャーの正確確率検定の結果

終助詞	NUCC		CEJC	
	<i>p</i> 値	$\phi$	<i>p</i> 値	$\phi$
かしら	0.00270 **	0.23	0.00016***	0.26
のよ	0.00067 ***	0.26	0.1196	0.11
のね	0.00001 ***	0.34	0.07542	0.12
わよ	0.03317 *	0.17	0.01127 *	0.18

わね	0.2328	0.1	0.01043 *	0.17
----	--------	-----	-----------	------

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

2つのコーパスにおいて同じ表現の女性性に異なる結果が得られた。具体的には、以下の通りである。

- (1)「かしら」に関して、2つのコーパスにおいてともに有意差があり（効果小）、女性の使用は男性より有意に多いとわかった。したがって、女性性のある終助詞であると考えられる。
- (2)「のよ」に関して、NUCCを調査した結果、有意差があり（効果小）、女性の使用は男性より有意に多いとわかった。これに対して、CEJCでは有意差がなかったため、「のよ」は無性化している傾向があると考えられる。
- (3)「のね」に関して、NUCCを調査した結果、有意差があり（効果中）、女性の使用は男性より有意に多いとわかった。これに対して、CEJCでは有意差がなかったため、「のね」は「のよ」と同様に、無性化している傾向があると考えられる。
- (4)「わよ」に関して、2つのコーパスにおいてともに有意差があり（効果小）、女性の使用は男性より有意に多いとわかった。したがって、女性性のある終助詞であると考えられる。
- (5)「わね」に関して、NUCCを調査した結果、有意差がなかった（効果小）ため、男女の使用に有意な差があるとは言えない。一方、CEJCでは、有意差があり（効果小）、女性の使用は男性より有意に多いとわかった。したがって、女性性が強くなる傾向があると考えられる。

「かしら」「のよ」「のね」「わよ」「わね」の使用例を男女の順で以下に示す。

#### 例1 40代前半男性

M021: なんかじゃあ、1字じゃなくて熟語レベルでああいうのにするといいかしら。

(NUCC data048 下線は筆者)

#### 例2 45-49歳女性

K002\_005: えっと最初に連絡もらって予約制みたいな感じにしたほうがいいかしら。

(CEJC K002\_004 下線は筆者)

#### 例3 35-39歳男性

T005: それ飲んでるとたばこの味がしなくなんのよ。

(CEJC T005\_008 下線は筆者)

#### 例4 30代後半女性

F130: いやいや、彼女は飲めないのよ。

(NUCC data113 下線は筆者)

#### 例5 20-24歳男性

T010-004: でなんかそこにお客さんが来るのね。

(CEJC T010\_004 下線は筆者)

#### 例6 40代後半女性

F113: 使えばいいのね。

(NUCC data015 下線は筆者)

例 7 10-14 歳男性

T001\_003: 出ないわよ。

(CEJC T001\_013 下線は筆者)

例 8 20 代前半女性

F021: あんた、だって何時に終るって確定してくれなきゃ困るわよ。

(NUCC data088 下線は筆者)

例 9 50-54 男性

T015\_013: 使ってやろうとは思わないわね。

(CEJC T015\_008a 下線は筆者)

例 10 50 代前半女性

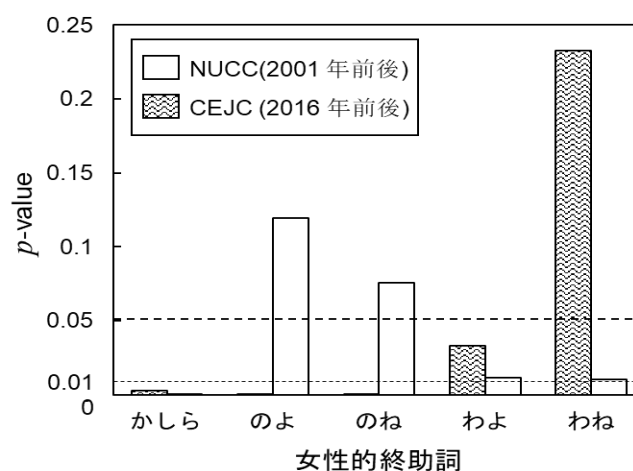
F053: 子どものときのね、使ってもいいわね。

(NUCC data115 下線は筆者)

## 6 考察

NUCC と CEJC を調査した結果、先行研究において女性的終助詞とされているものは、すべてが女性に有意に多く用いられているわけではなく、男女に有意な差がなく用いられているものもあることがわかった。2つのコーパスにおける  $p$  値を図 1 に示す。ノ系の「のよ」と「のね」には右肩上がりの傾向が見られるのに対して、ワ系の「わよ」と「わね」は右肩下がり傾向が見られる。この原因は、2つのコーパスが作成された年に約 15 年の差があり、この差が関係している可能性が考えられる。ひょっとすると、言語変化を示しているのかもしれない。

図 1 NUCC と CEJC の結果図



## 参考文献

- 有泉優里 (2013)「会話文末における『男ことば』と『女ことば』の分類：ジェンダー識別傾向とジェンダー特異性を指標として」『日本語とジェンダー』13:63-72.
- 尾崎喜光 (1999)「女性専用の文末形式のいま」現代日本語研究会（編）『女性のことば（職場編）』33-58. 東京：ひつじ書房.
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・西川賢哉・伝康晴 (2018)「『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の概要」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3:475-484.
- 中村純子 (2000)「終助詞における男性語と女性語」『信州大学留学生センター紀要』1:1-11.
- 任利 (2005)「文末の『かしら』と非文末の『かしら』：性差表示の出現位置をめぐる一考察」『筑波日本語研究』10:36-55.
- 藤村逸子・大曾美恵子・大島デイヴィッド義和 (2011)「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏（編）『言語研究の技法：データの収集と分析』43-72. 東京：ひつじ書房.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992)『基礎日本語文法 改訂版』東京：くろしお出版.
- 増田祥子 (2016)「女性文末形式の使用の現在：『女性のことば・職場編』調査と比較して」遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・高橋美奈子（編）『談話資料 日常生活のことば』131-154. 東京：ひつじ書房.
- 水本篤・竹内理 (2008)「研究論文における効果量の報告のために：基礎的概念と注意点」『英語教育研究』31:57-66.
- 水本光美・福盛寿賀子・福田あゆみ・高田恭子 (2006)「ドラマに見る女ことば『女性文末詞』：実際の会話と比較して」『北九州市立大学国際論集』4:51-70.
- 山崎誠 (2017)「レジスター・位相の違いによる会話文の語彙的多様性」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』2:278-289.